

第4章 特別支援学級・特別支援教室

1 これまでの課題（小中一貫教育要領に基づく実践から見られた課題）

個に応じた学習課題の設定や、評価を適切に行うために、集団による指導上の工夫が求められる。一方で、生活年齢に促した学習内容を適切に設定するための学年に応じた目安が設定しにくい。特に、次のような点においては、指導の充実に向け、更なる工夫が求められる。

- 自己肯定感・自己有用感の向上
 - ・ 結果や過去へのこだわりやマイナスイメージ（自分にはどうせ無理だろう等の思い込み）からくる不安の克服
 - ・ 途中経過・過程に関する客観的な自己評価
 - ・ スモールステップ目標の自己による設定
- 生活力の向上，定着
- 体力・持久力・持続力の向上

2 課題を克服するための視点

- 指導者である教員が児童・生徒の実態を細かく把握する。得意なこと，不得意なこと，学習・生活において困難の要因となること等，一人一人の実態を明らかにする。
- 当該学年において身に付けさせたい力の習得を目指すとともに，児童・生徒一人一人の発達段階を考慮し，個に応じた《ねらい》を明確にする。
- 児童・生徒の実態・ねらいに応じた，効果的な教材・教具の工夫とスモールステップによる指導方法を確立する。
- 「できた」「分かった」という成功体験を積み重ね，自己有用感を高めて次の学習への意欲を高める。
- 体づくり運動等を継続して行い，姿勢保持などに必要な筋力を付ける。

3 具体的な手だて

- 教科等の指導に当たっては，特別支援学級・特別支援教室における学習で『育てる力』を具体的に明示する。
- 全ての教員が，児童・生徒の個別の課題に応じた手だての工夫や配慮することへのスキルの向上を図るために，『育てる力』に「自立活動」，「日常生活の指導」，「生活単元学習」の内容を具体的に例示する。なお，必ずしもここに例示された学年内に達成することを求めているわけではなく，個々の児童・生徒の状況に応じた段階の目標の目安として例示している。対象とする児童・生徒が現在どの発達段階にあるかを適切に把握し，個別指導計画の目標設定に活用する。
- 指導計画の作成に当たっては，年間の単元の指導時間や内容を見通して，その中で育む資質・能力の育成に向け，具体的な場面で実際的な活動を通して，自分と身近な社会や自然との関わりについての関心をもたせる。さらに，主体的・対話的で深い学びを実現する

ようにする。

- 自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるようにする。
- これまで支えてくれた人々への感謝の気持ちや、様々な活動に対して意欲的に取り組む活動を意図的、計画的に実施する。
- 運動をするための場所と時間を確保し、個々の運動量を確保するとともに、運動量や取り組んだ回数などを意識したり、確認したりすることができる活動を取り入れる。

第4章

特別支援学級・特別支援教室

第1節 各教科・市民科

第1 目標

品川区立学校教育要領第2章各教科及び第3章市民科の指導目標におおむね準ずる。

障害の程度や実態に応じて、必要な場合には、知的障害者である児童・生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科の目標を達成する。

第2 各学年の目標及び内容

品川区立学校教育要領第2章各教科及び第3章市民科の各学年の目標及び内容におおむね準ずる。

障害の程度や実態に応じて、必要な場合には、知的障害者である児童・生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科の目標や内容に替えて行う。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 品川区立学校教育要領第2章各教科及び第3章市民科の指導計画の作成と内容の取扱いにおおむね準ずる。
- 2 指導計画の作成に当たっては、個々の児童・生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況や経験等を考慮しながら、各教科の目標及び内容を基に、9年間を見通して、全体的な指導計画に基づき具体的な指導目標や指導内容を設定するものとする。
- 3 個々の児童・生徒の実態に即して、教科別の指導を行うほか、必要に応じて各教科、市民科及び自立活動を合わせて指導を行うなど、効果的な指導方法を工夫するものとする。その際、各教科等において育成を目指す資質・能力を明らかにし、各教科等の内容間の関連を十分に図るよう配慮するものとする。
- 4 児童・生徒の障害の程度や学級の実態等を考慮の上、下学年の教科の目標や内容に替えたり、各教科を知的障害者である児童・生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科に替えたりするなどして、個々の児童・生徒の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。
- 5 個々の児童・生徒の実態に即して、生活に結び付いた効果的な指導を行うとともに、児童・生徒が見通しをもって、意欲をもち主体的に学習活動に取り組むことができるよう指導計画全体を通して配慮するものとする。
- 6 児童・生徒の実態に即して学習環境を整えるなど、安全に留意するものとする。
- 7 児童・生徒の実態に即して自立や社会参加に向けて経験が必要な事項を整理した上で、指導するよう配慮するものとする。
- 8 学校と家庭等とが連携を図り、児童・生徒の学習過程について、相互に共有するとともに、児童・生徒が学習の成果を現在や将来の生活に生かすことができるよう配慮するものとする。
- 9 児童・生徒の障害の状態や学習状況、経験等に応じて、教材・教具や補助用具などを工夫するとともに、コンピュータや情報通信ネットワークを有効に活用し、指導の効果を高めるようにするものとする。

第2節 自立活動

第1 目標

個々の児童・生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、心身の調和的発達の基盤を培う。

第2 各学年の目標及び内容

1 目標及び内容

品川区立学校教育要領における「自立活動」では、「健康の保持」「心理的な安定」「人間関係の形成」「環境の把握」「身体の動き」「コミュニケーション」の各観点から具体的な指導項目を設定し、4-3-2の段階別に児童・生徒に育てる力を示している。

なお、これらについては、それぞれの項目が独立した活動ではなく、他の内容と相互の関連を大切にしながら、個別の児童・生徒の実態に即して、指導内容を適切に設定することが大切である。

(1) 主に健康の保持に関する項目

- ア 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること
- イ 病気の状態の理解と生活管理に関すること
- ウ 身体各部の状態の理解と養護に関すること
- エ 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること
- オ 健康状態の維持・改善に関すること

指導項目	第1,2,3及び4学年 (第4学年までに育てる力)	第5,6及び7学年 (第7学年までに育てる力)	第8及び9学年 (卒業までに育てる力)
生活リズム 生活習慣 適度な運動	決められた時刻に眠り、決められた時刻に起きる。	睡眠、食事、入浴、適度な運動など、生活リズムを整え、予定を実行できる健康状態を保つ。	翌日の予定に合わせて、就寝/起床時刻を設定し、予定を遂行するだけの体力や健康を維持する。
衣服の着脱	自分で正しく衣服の着脱をする。	気温や天候に合わせて、衣服の調整をする。	場や状況に合わせた服装を、自分で準備する。
登下校	決められた通学路を、一人で登下校する。	困ったことが起きたら、まもるつちを引いたり誰かに助けを求めたりして、問題を回避する。	公共交通機関のマナーやルールを守り、目的地に沿って利用する。
時間	時計を読むことができ、時刻・時間が分かる。チャイムや指示を守り、行動する。	時間の見通しをもって、自発的に行動する。	自分で時間のスケジュールを決め、それに沿って行動する。
体調	自分の体調を把握でき、大人に伝える。	自分の体調を把握でき、不調のときは服薬や安静など、自分で体調管理する。	自分の体調を管理するとともに、病気についての知識をもち、予防に努める。

(2) 主に心理的な安定に関する項目

ア 情緒の安定に関すること

イ 状況の理解と変化への対応に関すること

ウ 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること

指導項目	第1,2,3及び4学年 (第4学年までに育てる力)	第5,6及び7学年 (第7学年までに育てる力)	第8及び9学年 (卒業までに育てる力)
情緒	家庭環境や交友関係など安心できる環境の中で、教師からの励ましを受け入れ、学校や学習に対する緊張や不安を減らす。 勤勉性を培う。	小集団活動に参加し、友達からの励ましを受け入れたり、友達を励ましたりしながら、共に活動することを楽しみ、集団生活への苦手意識や拒否感を軽減する。 主体性を培う。	集団生活に意欲的に参加する。 周りの人の支援を受け入れ、自分の進路を主体的に考え、行動する。 人との信頼関係を培う。
調整力	気持ちが高ぶったときに、別室に移動し、クールダウンする。	気持ちの高ぶりを感じたときに、自らクールダウンすることを希望する。	感情の高ぶりを感じたときに、深呼吸するなど、自分なりの方法で抑え、その場で落ち着ける。
状況の理解	予定変更を理解し、支援を受けながら調整する。	予定変更の予告を受けて、行動の見通しをもち対応しようとする。	急な予定変更にも、適切に受け入れ、対応しようとする。困ったときは教師に相談する。
こだわり	家庭・学校生活において、環境の調節のもと、不都合なこだわりを自ら軽減する。	自分のこだわりの特性を把握し、コントロールしようとする。	自分のこだわりの特性を把握し、コントロールする。
余暇	家族や身近な人と公園の遊具やスポーツ・ゲームなど、好きなことや得意なことを共に楽しむ。	創作活動やスポーツや読書など、文化的なことにも、すすんで取り組む。	長期にわたり、楽しみながら取り組める趣味を見付ける。スポーツや文化的なことなどに取り組み、心身ともに充実感を味わう。

(3) 主に人間関係の形成に関する項目

- ア 他者とのかかわりの基礎に関すること
- イ 他者の意図や感情の理解に関すること
- ウ 自己の理解と行動の調整に関すること
- エ 集団への参加の基礎に関すること
- オ 認知や行動の手掛かりとなる概念形成に関すること

指導項目	第1,2,3及び4学年 (第4学年までに育てる力)	第5,6及び7学年 (第7学年までに育てる力)	第8及び9学年 (卒業までに育てる力)
挨拶・返事	日常的な挨拶を交わしたり、返事をしたりする。	自分から相手を見て、相手や場に応じた挨拶・返事をする。	相手や場に応じた挨拶をしたり、断り方・断られ方を理解したりする。
感情への気付き	表情や身振りに注目し、喜怒哀楽の違いが分かる。自分の感情を理解する。	相手の言葉や表情、身振りから、相手の意図や感情を読み取る。	相手の言葉や表情などから、立場や考えを推しはかりながら行動する。
身だしなみ	毎朝、鏡を見て身だしなみを整える。	相手に不快な印象を与えないよう、身だしなみを整える。	場に相応しい身だしなみを考え、整える。
金銭の管理	決められた買い物をする。 おつりの計算をする。 金銭の貸し借りをしない。	決められた金額の中で、必要なものを買い物する。 おこづかい帳をつける。	おこづかいの管理をする。 適切な金銭感覚を身に付ける。
自己理解	周囲からの励ましを受け入れ、自分の良さに気付く。 自分の得意・不得意を知る。	自分の良さが分かり、自信をもつ。 自分の得意・不得意を理解し、自分に合う対処方法を獲得し、実行する。	自分らしさに自信をもち、失敗や困難なことがあっても前向きに捉える。自分の長所や短所を客観的に把握し、場や状況に応じて柔軟な対応をする。
報告・連絡・相談	教師と一緒に課題に取り組み、終わったことを一緒に確認する。	課題が終わったら「できました」と報告する。上手くいかなかったとき、困ったときにも報告したり相談したりする。	課題に取り組む工程を考え、効率的に解決していく。上手くいかないときに相談できる人を見付け、相談して解決する。
友達関係	先生やクラスの友達の名前を覚え、一緒に遊んだり、グループで活動したりする。	相手の嫌がる言動をしないで、一緒に活動する。目的のあるグループ活動を一緒にする。	苦手な相手でも、程よい付き合いをする。友達関係の悩みについて誰かに相談する。
集団参加	集団でのルールを知り、守りながら活動する。 決められた係活動を行う。	集団でのルールを守り、主体的に活動する。場の雰囲気や相手の意図を知る。クラブ・委員会活動を行う。	場の雰囲気や相手の意図を理解して自分の行動を調整する。 部活動を楽しむ。
集団行動	合図に合わせて列に並んだり、歩行したりする。行事に参加する。	集団での自分の立場や役割を知り、友達とのやり取りを受け入れながら活動する。	公共の場でのルールやマナーを守って行動する。

(4) 主に環境の把握に関する項目

- ア 保有する感覚の活用に関すること
- イ 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること
- ウ 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること
- エ 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること
- オ 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること

指導項目	第1,2,3及び4学年 (第4学年までに育てる力)	第5,6及び7学年 (第7学年までに育てる力)	第8及び9学年 (卒業までに育てる力)
触る	対象物にしっかり触れ、素材の性質や力加減、痛さなどの皮膚感覚を取り込む。	対象物に触れたときの感覚や力加減の違いを感じたり感覚をイメージしたりする。	今までに触れた対象物の感覚を想起し、自分の生活と合わせて活用する。
見る	対象物を目で追ったり、視点を移動させたりして捉える。	対象物を捉え、形を理解し、自分の中でイメージする。	今までに見た対象物を想起させ、自分の生活と合わせて活用する。
聞く	音の鳴る方向を正確に把握する。音韻を正確に聞き取る。聞いたとおりに復唱する。	言われていることを正確に聞き取ろうとし、分からないときにはメモを書いたり聞き返したりする。	言われていることを正確に聞き取り、内容をイメージしたり、大切なポイントを押さえたりする。
話す	文型や話型を理解し、それに沿った学習言語で話す。	様々な言葉とその意味を理解し、声の大きさを調節したり、分かりやすい表現を工夫したりして話す。	相手や場に応じた、適切な言葉を選び、ふさわしい表現方法で話す。
読む	言葉のまとまりを捉えて読む。	文章を読み、言葉の意味を理解して、その場にふさわしい読み方で読む。	自分の気持ちや人物の気持ちを反映させて、話の雰囲気に合わせて読む。
書く	運筆練習ができる。まずに文字を取めようと意識しながら、大まかな形を捉えて書く。清音・濁音・半濁音を含んだ文字を正しく表記する。	ますや枠に収まるように調整しながら文字を書く。特殊音節を含んだ文字を正しく表記する。	書く場所のスペースと仕上がりをイメージしながらバランスよく書く。漢字かな(カタカナ)交じり文を正しく表記する。
補助・代行手段の活用	ICT機器などの補助器具の基本的な使い方を知り、「できた」「分かった」と思える体験を積む。	ICT機器などの補助器具を用いれば、できることが増えることを理解する。	ICT機器などの補助器具を日常的に用いて、自力で課題を解決しようとする。
学習態勢	一定時間、決められた課題に取り組む。	必要に応じて、周りの人と相談しながら方法を考え、問題を解決していく。	自分の立場や役割を理解し、正しく遂行する。
学習場面の把握	学習の場所や自分の靴箱・座席・ロッカーなどの場所を、写真や動画、手順表などを基に理解し、学習に応じた用具を自分で用意しようとする。	必要な道具や活動の進め方などを、写真や動画、手順表などを基に理解し、自分からすすんで取り組む。	視覚や聴覚などから得た情報を基に、学習に応じた環境を整備し、自力で学習活動を進める。
相手との適切な距離	具体物を活用しながら、物や人との適切な距離を把握し、衝突したり近付きすぎたりしないようにする。	物や人との適切な距離を把握し、衝突したり近付きすぎたりしないようにする。	日常生活において物や人との適切な距離感を把握し、相手や場に合わせて行動する。
地図の把握	上下・左右・前後を理解する。隣、何番目が分かる。	上下・左右・前後などが分かり、人や物の位置を把握する。指示に合わせて並び替える。	地図の見方を理解し、地図を見ながら、目的地にたどり着く。
概念形成	事物の性質や特徴が分かり、共通点や違いに気付く。	体得した概念を基に、新たな事象の特徴を理解する。	体得した概念を基に、新たな事象の特徴を理解し、問題を解決する。

(5) 主に身体の動きに関する項目

- ア 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること
- イ 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること
- ウ 日常生活に必要な基本動作に関すること
- エ 身体の移動能力に関すること
- オ 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること

指導項目	第1,2,3及び4学年 (第4学年までに育てる力)	第5,6及び7学年 (第7学年までに育てる力)	第8及び9学年 (卒業までに育てる力)
姿勢保持	授業中、正しい姿勢をしようとする。 モデルの動きを模倣し、補助されながら10秒間程度、同じ姿勢を保つ。	授業中の半分程度、正しい姿勢を持続できる。 モデルの動きを模倣し、自力で10秒間程度、同じ姿勢を保つ。	授業の大半を正しい姿勢で過ごす。 緊張とリラックスを理解し、自分で調整する。
身体の感覚	人と抵抗なく、身体接触をする。 人に触られた部位が把握できる。 自分の体の幅、高さを把握する。	自分の体の大きさや動きの予測をし、人との距離などが把握できる。	人と適切な距離を保つことができる。
作業・協応	補助具や視覚的支援を用いて、学習用具（鉛筆・のり・はさみ・絵の具・コンパス・鍵盤ハーモニカ・リコーダー等）の使い方を知り、操作方法を体得する。	学習用具を、正しく使う。	自分にとって必要な学習用具を求められる段階に応じて使いこなす。
基本動作 「走」	走り方の基本動作を習得する。 立ち止まらずに一定の距離を走る。	距離に合わせてペース配分をしながら走る。 途中で立ち止まることなく、一定の速度で走り続ける。	様々な「走」の運動に主体的に参加する。
基本動作 「跳」	片足跳び、両足跳びを使い分ける。 短縄で、その場両足跳びが30回以上できる。 長縄跳びで回る縄の中に入る。	走り幅跳びや高跳びに挑戦する。 短縄の前跳び、後ろ跳びが50回以上でき、綾跳びや交差跳びなどの複雑な跳び方に挑戦する。 長縄跳びで回る縄のタイミングに合わせて自分から跳ぶ。	様々な「跳」の運動に主体的に参加する。
基本動作 「投」	的に向かって、両手で足を踏み出しながら投げる。ボールを両手で抱え込みながら捕球する。 的に向かって、片手で足を踏み出しながら投げる。片手で腕を伸ばしながら捕球する。	投げるための一連の動作がスムーズに行える。 様々なボールゲームに参加する。	様々な「投」の運動に主体的に参加する。

(6) 主にコミュニケーションに関する項目

- ア コミュニケーションの基礎的能力に関すること
- イ 言語の受容と表出に関すること
- ウ 言語の形成と活用に関すること
- エ コミュニケーション手段の選択と活用に関すること
- オ 状況に応じたコミュニケーションに関すること

指導項目	第1,2,3及び4学年 (第4学年までに育てる力)	第5,6及び7学年 (第7学年までに育てる力)	第8及び9学年 (卒業までに育てる力)
非言語の意思疎通	言葉だけでなく、表情や態度の意思疎通があることを知る。	非言語の意思疎通を読み取ろうとする。	暗黙のルールを読み取り、適切な行動をする。
気持ちや言葉の受け止め	身近な人からの呼び掛けに応じ、自分なりに反応を示す。他者への関心を示す。	所属する集団の中で、自分なりの方法で意思や要求を伝える。	所属する集団の中で、表情や身振り、言葉を交えたやり取りを成立させる。
気持ちの表現	自分の気持ちを把握し、具体物や絵や図、写真や文字を指し示しながら、自分の気持ちを言葉で表現する。	自分の気持ちを正しく理解し、言葉に加えて、絵や図、写真や文字などを用いて、受け応えしたり、場や状況に応じた振る舞いをしたりする。	自分の気持ちを客観的に把握し、場や状況に応じた適切な表現をする。 自分に合う表現方法が分かり、意思や要求を伝える。
語彙の獲得	絵や写真を見て、言葉で表す。仲間分け、関係性などに気付く。学校生活に必要な基本的な語彙を獲得する。	抽象的な言葉を理解する。学習言語や5W1Hなどの文法体系を理解する。	学習の場や相手と、事象や様子に合わせた適切な言語表現ができる。
コミュニケーション手段	得意な力を活用しつつ、苦手な力はICT機器などの補助器具を用いてカバーすることで、意思や要求が伝えやすくなることを理解する。 (読み上げ機能、録音機能、キーボード入力、その他のアプリケーション)		自分が活用しやすい、様々な機器を使用して、より良いコミュニケーションを図ろうとする。
会話	身近な人と、身の回りのことや興味のあることについて話す。相手によって丁寧な話し方が必要であることを理解する。	身近な人と目上の人とでは、話し方に違いがあることを知り、実際に使い分けて会話をする体験を積む。	慣れ親しんだ人、目上の人、初対面の人など、相手との関係性に配慮して会話をする。
通信・情報	自分の住所・電話番号が分かる。個人情報の大切さを知る。	手紙を書く、電話の送受信ができる。個人情報を不用意に相手に伝えない。情報モラルを守り、通信可能な電子機器を使用する。	電話やインターネットの使い方やマナーを理解し、正しく使う。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 自立活動の指導に当たっては、個々の児童・生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等の的確な把握に基づき、指導すべき課題を明確にすることによって、指導目標及び指導内容を設定し、個別指導計画を作成するものとする。その際、第2に示す内容の中からそれぞれに必要な項目を選定し、それらを相互に関連付け、具体的に指導内容を設定するものとする。
- 2 個別指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。
 - (1) 個々の児童・生徒について、障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、生活や学習環境などの実態を的確に把握すること。
 - (2) 児童・生徒の実態把握に基づいて得られた指導すべき課題相互の関連を検討すること。その際、これまでの学習状況や将来の可能性を見通しながら、長期的及び短期的な観点から指導目標を設定し、それらを達成するために必要な指導内容を段階的に取り上げること。
 - (3) 具体的な指導内容を設定する際には、以下の点を考慮すること。
 - ア 児童・生徒が、興味をもって主体的に取り組み、成就感を味わうとともに自己を肯定的に捉えることができるような指導内容を取り上げること。
 - イ 児童・生徒が、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服しようとする意欲を高めることができるような指導内容を重点的に取り上げること。
 - ウ 個々の児童・生徒が、発達の遅れている側面を補うために、発達の進んでいる側面を更に伸ばすような指導内容を取り上げること。
 - エ 個々の児童・生徒が、活動しやすいように自ら環境を整えたり、必要に応じて周囲の人に支援を求めたりすることができるような指導内容を計画的に取り上げること。
 - オ 個々の児童・生徒に対し、自己選択・自己決定する機会を設けることによって、思考・判断・表現する力を高めることができるような指導内容を取り上げること。
 - カ 個々の児童・生徒が、自立活動における学習の意味を将来の自立や社会参加に必要な資質・能力との関係において理解し、取り組めるような指導内容を取り上げること。
 - (4) 児童・生徒の学習状況や結果を適切に評価し、個別指導計画や具体的な指導の改善に生かすよう努めること。
 - (5) 各教科及び市民科の指導と密接な関連を保つようにし、計画的、組織的に指導が行われるようにするものとする。
- 3 個々の児童・生徒の実態に応じた具体的な指導方法を創意工夫し、意欲的な活動を促すようにするものとする。
- 4 重複障害者のうち自立活動を主として指導を行うものについては、全人的な発達を促すために必要な基本的な指導内容を、個々の児童・生徒の実態に応じて設定し、系統的な指導が展開できるようにするものとする。その際、個々の児童・生徒の人間として調和のとれた育成を目指すように努めるものとする。
- 5 自立活動の指導は、専門的な知識や技能を有する教師を中心として、全教師の協力の下に効果的に行われるようにするものとする。
- 6 児童・生徒の障害の状態等により、必要に応じて、専門の医師及びその他の専門家の指導・助言を求めるなどして、適切な指導ができるようにするものとする。

- 7 自立活動の指導の成果が進学先等でも生かされるように、学校生活支援シート等を活用して関係機関等との連携を図るものとする。

第3節 各教科等を合わせた指導

「各教科等を合わせた指導」は生活中心の総合的な学習活動であると捉えることが重要であり、生活上の課題を達成するための一連の活動に取り組む過程で、いろいろな領域や教科の内容を習得するものである。各教科、市民科及び自立活動の全部又は一部について合わせて授業を行う。

領域・各教科等を合わせた指導では、実際の・具体的な内容の指導によって、成功体験を豊富にし、主体的に活動に取り組む意欲を育てていく。

第1 各学年の「育てる力」及び内容

日常生活の指導は、児童・生徒の日常の生活が充実し、高まるように日常生活の諸活動を適切に指導するものである。品川区立学校教育要領における「日常生活の指導」では、「衣類の着脱」「排泄」「食事」など基本的な生活習慣の内容や、「挨拶」「言葉遣い」「礼儀作法」など日常生活や社会生活において必要で基本的な内容について、9年間を見通した指導項目を設定し、4-3-2の段階別に「育てる力」を示している。

1 日常生活の指導（特別支援学級〔知的障害学級〕のみ）

(1) 基本的な生活習慣

ア 食事

指導項目	第1,2,3及び4学年 (第4学年までに育てる力)	第5,6及び7学年 (第7学年までに育てる力)	第8及び9学年 (卒業までに育てる力)
配膳	食器を並べたり片付けたりする。	器を置く場所を考えて配膳する。	/
挨拶	食前食後の挨拶をする。	/	/
スプーン・箸	スプーン・箸を使って食べる。	ご飯やおかずが器に残らないよう箸ではさんで食べる。	切り分ける、ほぐすなど箸を上手に使う。
食べる	良く噛んで食べる。	主食と副食を取り合わせて食べる。	苦手な物も、栄養と考えて食べる。
マナー	口の周りが汚れたら、自分で拭く。	口を閉じて噛む。	周りのペースに合わせて食事をする。
献立の名前	給食の主な献立の名前が言える。	給食や家庭の献立の名前がほぼ言える。	外食時の献立の名前が言える。

イ 排泄

指導項目	第1,2,3及び4学年 (第4学年までに育てる力)	第5,6及び7学年 (第7学年までに育てる力)	第8及び9学年 (卒業までに育てる力)
トイレ	担任に告げてトイレに行く。	ノックをして入り、便器を汚さずに用をたす。自宅、学校、和式、洋式などいろいろなトイレに行ける。	便器を汚したら、きれいに拭いてから出る。
男子	ズボンを膝まで下げて用をたす。	ズボンの前だけ下げて用をたす。 下着やズボンの前立てから用をたす。	下着やズボンの前立てから用をたす。
女子	ズボンやスカートで用をたす。	スカートでも裾に気を付けてできる。 生理の手当てをする。	生理の後始末がきちんとできる。
大便の始末	肛門にペーパーを当てる。	ペーパーに汚れがつかなくなったら終える。	軟便でもきれいに拭ける。
身だしなみなど	下着や服装を整えてから出る。	出かける時や集会前など、自分からトイレに行く。	長時間の外出時は、トイレのことを考えて行動する。

ウ 衣服の着脱

指導項目	第1,2,3及び4学年 (第4学年までに育てる力)	第5,6及び7学年 (第7学年までに育てる力)	第8及び9学年 (卒業までに育てる力)
衣服の着脱	自分で着脱ができる。	前後を間違えずに着る。裏返しにならないように脱ぐ。	立って、きちんと衣服の着脱ができる。
靴・靴下	左右を間違えずに靴をはく。 かかとの位置を間違えずに靴下をはく。	立って、きちんと靴や靴下をはける。	場所や天気に合わせて、はき物を選ぶ。
ボタン・ひも	ボタン、カギホック、ファスナーのはめはずしができる。	ベルトを使える。ひもの1回結び、かた結びができる。	蝶結びができる。
雨具	傘の開閉ができ、ひもできれいにまとめる。	折り畳み傘の開閉ができ、きれいにたたむ。	濡れた傘を人の迷惑にならないように処理する。
身だしなみ	シャツの裾が入れられる。 指示されると、襟や裾を直す。	鏡を見ると、着衣の不十分な所に気付く。	着衣が乱れたときに自分で気付いて直す。
衣服の始末	自分で衣服をたたむ。	衣服をハンガーにかける。 決められた場所に衣服をしまう。	活動や天候、寒暖にあわせて、衣服を選ぶ。

エ 清潔

指導項目	第1,2,3及び4学年 (第4学年までに育てる力)	第5,6及び7学年 (第7学年までに育てる力)	第8及び9学年 (卒業までに育てる力)
手洗い	石鹸を泡立てて、手洗いを する。 手の甲も2, 3回ふく。	拭いたハンカチをたたんで しまう。 水滴が残っていたらふき直 す。	公共施設等で、ペーパータ オルやエアータオルを使う。
鼻水の処理	ハンカチを出して使う。 ポケットティッシュを出し て使う。	ティッシュで上手に鼻をか む。	鼻をかむときは、周囲に配 慮する。
うがい	ブクブクうがい、ガラガラ うがいをする。	外から帰ったら必ずうがい をする。周りに水をとばさ ずにできる。	インフルエンザなど社会状 況をみて、うがいをする。 使ったコップを洗って戻す。
歯磨き	磨きやすいところを自分で こする。	裏面、側面も磨く。	全体にむらなく磨く。
洗面	顔の一部に水をつける。	全体をこする。	せっけんも使い、きれいに 洗う。
髪・爪	寝ぐせ、爪が伸びているこ とに気付く。	自分で髪をとかす。爪を切 る。	髪が伸びたら、自分から床 屋や美容院に行く。
起床・就寝	決まった時刻に寝起きする。	決まった時刻に自分から起 きる。	布団の上げ下ろしをする。 ベッドの整頓をする。
入浴	体や髪の毛を一通り洗う。	体を拭いてから出る。 バスタオルで体を拭く。	入浴後、用具の片付けをす る。

(2) 健康・安全

ア 健康

指導項目	第1,2,3及び4学年 (第4学年までに育てる力)	第5,6及び7学年 (第7学年までに育てる力)	第8及び9学年 (卒業までに育てる力)
症状を 知らせる	けがや体調の悪いときに、 大人に知らせる。	けがや体調の悪い状態を、 大人に説明する。	1人で保健室を利用する。 友達の体の異常を大人に伝 える。
健康診断	指示された健康診断や予防 接種を受ける。	健康診断や発育測定の結果 がわかり、体の成長に関心 をもつ。	進んで健康診断や予防接種 を受ける。
検温	自分で体温計を使える。	体温計の数字(メモリ)が読 める。	体温と健康の関係が分かる。

イ 安全

指導項目	第1,2,3及び4学年 (第4学年までに育てる力)	第5,6及び7学年 (第7学年までに育てる力)	第8及び9学年 (卒業までに育てる力)
危険認知	「危ない」と注意されたら止める。	危険なことをしない。危険な場所に行かない。	電気器具, ガス栓, ライター, 刃物を安全に取り扱う。
道路歩行	道路は, 右側, 歩道を歩く。	信号に従って行動する。	道路の横断は, 横断歩道や歩道橋を渡る。
交通ルール	道路への飛び出しや道路で遊ぶことをしない。	交通ルールを守って自転車に乗る。	横断禁止, 通行止めなど, いくつかの標識が分かる。
避難訓練	指示に従って, 避難する。	放送の指示で, 避難できる。	放送の指示で, 速やかに避難できる。

(3) 人や社会との関わり

ア 遊び

指導項目	第1,2,3及び4学年 (第4学年までに育てる力)	第5,6及び7学年 (第7学年までに育てる力)	第8及び9学年 (卒業までに育てる力)
友達遊び	大人と一緒に友達といろいろな遊びをする。	友達を誘って遊ぶ。	仲間に入れたい友達を誘って遊ぶ。
種類	遊具で遊ぶ。じゃんけんを使った簡単なルールの遊びをする。	フルーツバスケット, いすとりゲームなどの集団遊びをする。	自分で遊びを選んだり, 考えたりする。 友達や全体のことを考えて, 遊ぶ。

イ 人との関わり

指導項目	第1,2,3及び4学年 (第4学年までに育てる力)	第5,6及び7学年 (第7学年までに育てる力)	第8及び9学年 (卒業までに育てる力)
名前	自分や家族, クラスの先生や友達の名前を言う。	自宅の住所, 電話番号を言う。交流学年の先生や友達の名前を言う。	校内の先生, 親戚の人の名前を言う。
挨拶	身近な人に「おはよう」「さようなら」などを言う。	身近な人に, 簡単な日常の挨拶をする。	日常の挨拶を, 自分から適切に言う。
伝言・応対	見たこと, 聞いたこと, 遊んだことを話す。	見たこと, 聞いたこと, 遊んだことを友達や大人と話し合う。	電話の応対ができる。 来客があったときは, 取次をする。
自他の区別・貸し借り	自他の区別ができ, 人の物をむやみに触らない。	指示されて, 人に物を貸す。物を借りたらきちんと返す。	頼まれたら進んで自分の物を貸す。自分で物を借りに行き, きちんと返す。
対人関係1	「ありがとう」「ごめんなさい」を言う。	「ありがとう」「ごめんなさい」を適切に言う。	人の過ちをむやみにとがめない。
対人関係2	「いや」「～したい」と言う。	約束を守る。	相手のことを考えて自分の気持ちを伝える。

ウ 役割

指導項目	第1,2,3及び4学年 (第4学年までに育てる力)	第5,6及び7学年 (第7学年までに育てる力)	第8及び9学年 (卒業までに育てる力)
役割	学校行事などに参加し、簡単な役割をする。	大人と一緒に地域の行事に参加する。	大人と一緒に地域の行事に参加し、簡単な役割をする。
係活動・作業	クラスの係や当番をする。	運動会、学芸会などで簡単な係をする。	様々な作業を分担し、行う。

エ 手伝い・仕事

指導項目	第1,2,3及び4学年 (第4学年までに育てる力)	第5,6及び7学年 (第7学年までに育てる力)	第8及び9学年 (卒業までに育てる力)
そうじ・洗濯	ほうき、雑巾、ちりとりを使い、教室の掃除をする。	決められた場所の掃除をする。 洗濯機を操作する。	正しい方法で掃除をする。 洗濯を干し、取り込んでたたむ。
道具・仕事	草花や飼っている動物の世話をする。	仕事で使う道具や器具の扱いに慣れる。	道具や器具を大切に扱う。 修理の手伝いをする。
片付け	学習道具の片付けをする。	仕事の後片付けをする。	仕事が済んだら報告する。

オ きまり

指導項目	第1,2,3及び4学年 (第4学年までに育てる力)	第5,6及び7学年 (第7学年までに育てる力)	第8及び9学年 (卒業までに育てる力)
学校生活1	始業、終業のチャイムに従って行動する。	集合、整列、着席を自分からする。	学校の日課に沿って生活する。
学校生活2	みんなで使う物は、大切に する。	火災報知器や非常電話などを いたずらしない。	貴重品や書類に触れたり持 ち出したりしない。
登下校	通学路を歩く。	一人で登下校する。	時間の見通しをもって、登 下校する。
校外学習	指示に従って行動する。 乗り物の中では、静かに過 ごす。	集団行動のきまりを守る。 バス料金を出したり、電車 の切符を買ったりする。バ スや電車で交通系カードを 使える。	公共施設などのきまりを守 る。 目的地までの往復の日程を 把握する。

カ 金銭

指導項目	第1,2,3及び4学年 (第4学年までに育てる力)	第5,6及び7学年 (第7学年までに育てる力)	第8及び9学年 (卒業までに育てる力)
お金	お金が大切な物であることが分かり、粗末に扱わない。	もらったお年玉や小遣いを大切にする。生活にはお金が必要なことを知り、無駄遣いをしない。	自分で考えて小遣いを使う。すぐ使わないお金は、貯金する。
買い物1	硬貨の金種が分かり、買い物をする。 「ください」など買い物に必要な言葉を使う。	1000円が分かり、少額の買い物をする。 「おつり」「いくらですか」など買い物に必要な言葉を使う。	5000円、10000円が分かり、「高い」「安い」など買い物に必要な言葉を使う。
買い物2	自動販売機を利用する。	スーパーなどのレジで簡単な買い物をする。	スーパーなどのレジで、おつりのある買い物をする。
買い物3	学用品などのおよその値段が分かる。	旅行などしたときに、自分で考えて土産を買う。	よく使う日用品や食品の値段が大体分かる。

キ 自然

指導項目	第1,2,3及び4学年 (第4学年までに育てる力)	第5,6及び7学年 (第7学年までに育てる力)	第8及び9学年 (卒業までに育てる力)
天気	晴, 雨, 曇りなど天気が分かる。	天気予報で, その日や翌日の天気を知る。	週間天気予報や, 目的地の天気を知る。
季節	冬は寒く, 夏は暑いなど季節の特徴に関心をもつ。	春夏秋冬のことは知り, 四季の変化に関心をもつ。	四季それぞれの主な特長が分かる。

ク 社会のしくみ

指導項目	第1,2,3及び4学年 (第4学年までに育てる力)	第5,6及び7学年 (第7学年までに育てる力)	第8及び9学年 (卒業までに育てる力)
職業	「おまわりさん」「郵便屋さん」「〇〇やさん」などに関心をもつ。	いろいろなお店の名前が言える。	いろいろな職業の名前が言える。
公共の物	学校や家の近くの交番, 停留所, 駅の名前や場所が分かる。	警察署, 消防署, 郵便局のおよその仕事分かる。	病院, 区役所などのおよその仕事分かる。
地域・国	自分の住む「品川区」「東京」の名称が言える。	都道府県名・地名等を, いくつか言える。 日本と外国の違いについて分かる。	世界の国・都市の名称等をいくつか言える。
社会のできごと	テレビなどを通して, 社会の出来事(スポーツ・芸能含)に関心をもつ。	テレビなどを通して, 社会の大きな出来事に関心をもつ。	テレビや新聞で, 社会の大きな出来事を知る。

2 生活単元学習（特別支援学級〔知的障害学級〕のみ）

生活単元学習は、児童・生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際的・総合的に学習するものである。品川区立学校教育要領における「生活単元学習」は、自立的・主体的に生活する力を高めるため、「行事単元」「季節単元」「課題単元」「制作活動や作業活動中心の単元」「遊びを中心とした単元」「特定の教科と関連した単元」について、それぞれに9年間を見通した具体的な指導項目を設定し、4-3-2の段階別に「育てる力」を示している。

(1) 行事単元

指導項目	第1,2,3及び4学年 (第4学年までに育てる力)	第5,6及び7学年 (第7学年までに育てる力)	第8及び9学年 (卒業までに育てる力)
遠足	遠足の楽しさを知る。	いろいろな場所を知る。	自分たちで計画を立て、出掛ける。
宿泊学習	家庭を離れた生活に慣れ、宿泊学習を楽しむ。	身の活動を自分で行いながら、宿泊学習を楽しむ。	身の活動を自分で行うとともに、友達と協力して活動する。
学習発表会	学習したことを、みんなの前で発表する。	自分の役割を意識して発表する。 発表会の流れの中で、係の仕事などの役割を果たす。	
文化祭		自分たちでやりたいことを考え、活動を楽しむ。	やりたいことを考え、みんなと楽しめるように工夫する。
運動会	みんなと一緒に、伸び伸びと元気に競技や演技をする。	運動会の流れの中で、係の仕事など、たくさんの人と関わりながら、意欲的に取り組む。	運動会をよりよいものにするための工夫を考えながら、自分の役割を果たす。
学芸会	自分の台詞や出番を理解し、大きな声で発表する。	自分の役割を理解し、それに合った表現をする。	
展覧会	テーマに合ったものを楽しく作る。	テーマに合ったものを工夫して作る。 みんなで協力して、1つのものを作り上げる楽しさを知る。	自分や友達の作品を見て、それぞれの良さに気づき、認め合う。
音楽発表会	歌や楽器をみんなで合わせることを楽しんで、発表する。	自分のパートや役割を意識して、楽しく歌や演奏を行う。	自分や友だちの良さに気づき、楽しく歌や演奏を行う。

(2) 季節単元

指導項目	第1,2,3及び4学年 (第4学年までに育てる力)	第5,6及び7学年 (第7学年までに育てる力)	第8及び9学年 (卒業までに育てる力)
季節行事	正月, 豆まき, こいのぼり, こどもの日, 七夕, お月見などの季節行事を楽しむ。	かざり作りや行事参加を通して祝い方を知って楽しむ。	主体的に季節行事を企画して楽しむ。
季節の自然	校庭や公園を探検し, 季節ごとの違いに気付き, 季節の草木等を使った遊びを知る。	季節の草木等を使って, 工夫してものを作ったり遊んだりする。	季節の草木等を使って作ったり遊んだりすることを活用した活動を企画して楽しむ。

(3) 課題単元

指導項目	第1,2,3及び4学年 (第4学年までに育てる力)	第5,6及び7学年 (第7学年までに育てる力)	第8及び9学年 (卒業までに育てる力)
衣替え	暑さ寒さに合った服装を知る。 気温に合わせた衣服の調整をする。	衣替えの時期を知り, 衣服を入れ替える。	衣替えの時期を意識し, 衣服を入れ替えようとする。
外出 交通ルール	道路の端を歩くこと, 信号機など, 道路のきまりを知る。 施設の利用の仕方などを知る。 並んで歩く。	交通機関の利用の仕方, 目的地での楽しみ方を知る。 標識や信号機の意味を理解し, 自ら決まりに合った行動をする。	自分たちで校外学習の計画を立て, 実施する。 住所から地図を見て大体の位置が分かり, 自分たちで計画を立てて出掛ける。
話合い	自分の思ったことを言ったり, 思いに合うものに手を挙げたりする。	自分の思ったことについて理由を述べる。 支援を受けながら司会や記録をする。	司会台本を見ながら話合いを進めたり, その内容に合ったことを発言したり, 決まったことを記録したりする。
買い物	買いたいものを自分で選ぶ。 お金を払ったり, おつりをもらったりする。	買いたいものや目的に合ったものを選ぶ。 買うために必要なお金を自分で支払う。	目的に合った買い物計画を立て, 必要なお金を用意して買い物をする。
交通機関の利用	身近にどんな交通機関があるかを知る。 乗車, 利用の仕方を知る。	身近な目的地を決め, 計画を立て, 交通機関を利用して出掛ける。 交通系ICカードを自分で使う。	遠い目的地を決め, 様々な交通機関を乗り継いで出掛ける。
外食	食事のマナーを身に付ける。 好きなものを選んで注文する。	いろいろなお店の注文の仕方を知り, 自分で注文する。	好みや目的に合わせてお店を決め, 食事をする計画を立てる。

(4) 制作活動や作業活動中心の単元

指導項目	第1,2,3及び4学年 (第4学年までに育てる力)	第5,6及び7学年 (第7学年までに育てる力)	第8及び9学年 (卒業までに育てる力)
調理	自分でもいろいろなものが調理できること、そのために材料を揃えることなどを 知る。	いろいろな調理法があることを知り、自分で計画を立てる。	自分たちで作る物、買い物、調理の仕方、片付けまで計画を立てて行う。
手芸	刺しゅう等のやり方が分かり、一定時間取り組む。	使用目的(作品の利用法)を理解し、意欲的に取り組む。	使用目的(作品の利用法)を理解し、完成までの計画を立てて意欲的に取り組む。
装飾作り	季節の草木、紙、箱等を使って簡単な飾りを作る。	行事等目的に合った飾りを考えて、工夫して作る。	行事等、目的に合った飾りの種類や作り方を考えて、工夫して作る。
カレンダー	カレンダーについて知り、枠に月日の数字を書いたり、その月に合った絵を描いたりする。	いろいろな種類のカレンダーを作る。(版画、パソコン、1年分、月ごと等)	使ってもらおうという目的を持ってカレンダーを作り、作製から配布までの計画を立てて作る。

(5) 遊びを中心とした単元

指導項目	第1,2,3及び4学年 (第4学年までに育てる力)	第5,6及び7学年 (第7学年までに育てる力)	第8及び9学年 (卒業までに育てる力)
子どもまつり	遊びや雰囲気を楽しむ。	自分で遊びを企画し、役割を果たす。 友達と協力しながら遊びを企画し、下学年の友達を楽しませる。	
作って遊ぶ	季節の草木、紙、箱等身近にあるものを使って、簡単な遊び道具を作り、楽しく遊ぶ。	行事やゲームなど、目的に合った遊び道具を、いろいろな材料を使って作り、遊ぶ。	
友達と遊ぶ	複数でできるいろいろな遊びを知り、楽しむ。	自分たちでやりたい遊びを決め、みんなで楽しむ。	
〇〇ランドで遊ぶ	遊び場作りや遊ぶことを、夢中になって楽しむ。	みんなで楽しめる遊び場を考え、遊び場作りや遊びを夢中になって楽しむ。	

(6) 特定の教科と関連した単元

指導項目	第1,2,3及び4学年 (第4学年までに育てる力)	第5,6及び7学年 (第7学年までに育てる力)	第8及び9学年 (卒業までに育てる力)
学校探検	学校にはどんな物があり、 どんな部屋があるのかを知る。	学校にある物や部屋には、 それぞれ用途があることを知る。	学校の施設を有効に利用できるようにする。
町探検	いろいろな場所や施設に興味をもつ。	見学した場所や施設の特徴 や役割を知る。	探検を通して、役割や歴史 を知り、生活に役立てる。
地図の 見方	身近な地域を知り、学校や 自分の家の位置関係などを、 理解する。	品川区や東京都の地図を見 て、身近な地域のことに関 心をもつ。	日本地図、世界地図など を見て、国や地域の位置 関係を知ったり、海外の 地理や出来事に興味をも ったりする。
実験	物の変化や特性に興味を もって楽しむ。	身近な物の変化や特性を知 る。	物の特性が生活の中にど のように生かされているか を知る。
図書館の 利用	図書館でのマナーを知り、 好ましい態度で利用するこ とができる。 好きな本を見つけて読む。	図書館の利用の仕方を知り、 読みたい本を借りたり返 したりする。	目的に合った本を選び、活 用する。

第2 指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 日常生活の指導に関しては、以下のような点を考慮することが重要である。
 - (1) 日常生活の自然な流れに沿い、その活動を実際的で必然性のある状況下で行うものであること。
 - (2) 毎日反復して行い、望ましい生活習慣の形成を図るものであり、繰り返しながら、発展的に取り扱うようにすること。
 - (3) できつつあることや意欲的な面を考慮し、適切な援助を行うとともに、目標を達成していくために、段階的な指導ができるものであること。
 - (4) 指導場面や集団の大きさなど、活動の特徴を踏まえ、一人一人の実態に即した効果的な指導ができるように計画されていること。

- 2 生活単元学習の指導計画に当たっては、以下のような点を配慮することが重要である。
 - (1) 単元は、実生活から発展し、児童・生徒の障害の状況や興味・関心などに応じたものであり、個人差の大きい集団にも適応するものであること。
 - (2) 単元は、必要な知識及び技能の獲得とともに、生活上の望ましい習慣・態度の形成を図るものであり、身に付けた内容が生活上に生かされるものであること。
 - (3) 単元は、児童・生徒が目標をもち、見通しをもって、単元の活動に積極的に取り組むもの

- であり、目的意識や課題意識を育てる活動を含んだものであること。
- (4) 単元は、各単元における児童・生徒の目標あるいは課題の成就に必要なかつ十分な活動で組織され、その一連の単元活動は、児童・生徒の自然な生活としてのまとまりのあるものであること。
 - (5) 単元は、豊かな内容を含む活動で組織され、児童・生徒が様々な単元を通して、多種多様な経験ができるよう計画されていること。
 - (6) 生活単元学習を指導するに当たっては、一つの単元が数日間程度で終わる場合もあれば、学期や年間を継続して実践する場合があるため、年間における単元配置、単元の構成や展開について十分検討すること。

第4章

特別支援学級・特別支援教室

各教科・
市民科

自立活動

各教科等を
合わせた指導